

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4692600010
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム「このゆびと一まれ」
訪問調査日	平成20年3月25日
評価確定日	平成20年4月22日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4692600010
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム「このゆびとーまれ」
所在地	南九州市知覧町永里4577番地2 (電話) 0993-83-1015
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(平成20年3月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6人、非常勤 3人、常勤換算 7.9人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
------	---------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	14,100 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4)利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小田代記念クリニック 川辺生協病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム名の「このゆびとーまれ」には、誰かが「このゆびとーまれ」と声をかけると、いつのまにか話の輪の中に、ひとり、またひとりと加わって、しだいに輪が広がっていく雰囲気の中で、穏やかな生活ができたらの思いが込められている。職員は、入居者の安全と健康を常に心がけ、笑いのある明るい生活をモットーにその暮らしを支えている。併設の介護老人福祉施設前には広いゲートボール場があり、近隣住民もゲームに参加しており、地域の憩いと入居者との交流の場になっている。代表者は、職員の笑顔とゆとりが入居者の笑顔につながると考えており、働きやすい環境の中で、職員は入居者の生活への意向を確認しながら、更なるサービスの質向上に向けて熱心に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回の評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価及び外部評価に取り組むことにより、理念を意識し、ケアの内容を振り返り、確認できた改善課題について実践につなげようと取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議には、入居者、ご家族、地域の方、市福祉課など幅広い立場の方々が参加しており、率直な意見を受けて改善に向けた取り組みを行い、サービスの質向上に活かしている。介護認定の更新手続きなどで市の窓口を訪問した際、担当者にホームの実情を報告したり相談したりすることで実態を共有し、連携を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者の状況等については、毎月の利用料支払いの面会時に報告が行われている。運営推進会議やご家族の面談時に、意見等を聴く機会を設けているが、今のところ意見や苦情は出されていない。引き続き、ご家族等が意見を表出しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員や事業者以外の第三者へも相談できる機会をつくり、それらを運営に反映できるように取り組んでいただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設の介護老人福祉施設園庭でゲートボールや夏祭りなどを行い、地域の方々と交流しており連携が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あたたかな家庭の延長としての暮らしと、地域とのふれあいを大切にする、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、いつも目につくところに掲示されている。管理者は理念を実践するため、ケア会議や日々のサービス提供時に、折りに触れて話しており、職員も常に理念を振り返るよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の介護老人福祉施設園庭でゲートボールや夏祭りなどを行い、地域の方々と交流しており連携が図られている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価及び外部評価に取り組むことにより、理念を意識し、ケアの内容を振り返り、確認できた改善課題について実践につなげようと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者、ご家族、地域の方、市福祉課など幅広い立場の方々が参加しており、率直な意見を受けて改善に向けた取り組みを行い、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定の更新手続きなどで市の窓口を訪問した際、担当者にホームの実情を報告したり相談したりすることで実態を共有し、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料支払いの面会時に、本人の暮らしぶりなどの報告を行っている。金銭管理状況については、月ごとの報告書をお渡しして確認のサインをもらっている。職員の異動についても、定期的及び個々にあわせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の面談時に、意見等を聴く機会を設けているが、今のところ意見や苦情は出ていない。	○	ご家族等が意見を表出しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員や事業者以外の第三者へも相談できる機会をつくり、それらを運営に反映できるように取り組んでいただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、最小限に抑えている。離職の際は、入居者へのダメージを防ぐ配慮として、ゆっくりとお別れができるように時間を十分にとり、管理者が、入居者一人ひとりに話しをするなどしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会や外部研修(地区グループホーム連絡協議会主催等)に全職員が交替で参加しており、受講の機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、同業者との交流や相談も行っており、ホーム同士でも、お互いのサービス水準の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に入居者やご家族に何回か見学してもらったり、管理者が自宅や施設に出向いて、本人が次第に馴染めるように心がけ、ご家族でよく話し合い納得された上でサービスを利用できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を人生の大先輩として、いろいろな場面で教えていただく姿勢を忘れないよう心がけている。職員と入居者が一緒に楽しみを見つけ、笑顔を引き出せるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々の会話や関わりの中で、一人ひとりの思いや意向をくみ取り把握している。その際は、居室で個別に話を聞く時間を確保するなど、本人の視点で関わるように心がけている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議で検討した内容や、ご家族の意見を介護計画に反映させている。	○	より良く暮らすための課題やケアのあり方について、本人やご家族、職員の意見や気づきを、更に反映した介護計画の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース会議において、介護計画の日々の実施状況及び本人の状態変化などを含めて話し合っている。	○	介護認定更新の際は、介護計画の見直しを行っているが、今後は計画の期間及び遂行状況を確認すると共に、本人の状態変化を計画に反映させるような見直しの方法を検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて、希望される買い物の外出支援や病院受診の付き添いなど、必要に応じて支援している。		
ある					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医に受診できるように、必要な支援がなされている。ご家族が同行できないときは職員が同行するなど、柔軟に支援している。この際は、受診内容を医療系ノートに記録し、受診結果のご家族への報告や職員間での情報共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合について、ご家族・かかりつけ医・訪問看護師を交えて話し合いを行い、重度化指針について説明し、本人やご家族の意向も確認して同意を得ている。ケース会議において、職員間で方針を共有している。	○	終末期の利用を希望されているご家族もあり、ホームが対応し得る最大限の支援方法を踏まえて、体制整備に取り組むことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録については、情報が漏洩しないように配慮し保管している。申し送りやケース会議の内容が入居者に聞こえないように、テレビの音量を大きくするなど工夫している。排泄時の誘導は、羞恥心や尊厳に配慮してさりげなく対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や散歩、入浴などは、入居者のペースを大切にできるように心がけている。本人と職員が、居室で対一になって話ができる時間も設けており、希望やペースに沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と、どんな料理にするかを話し合い、一人ひとりの力や意欲に応じて、職員と一緒に料理の準備や後片付けをして食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じて、10時～15時の好みの時間帯に毎日入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物が得意で、ミシンや手縫いで日用品をつくる方や、調理や花壇、菜園をつくる方などが居られ、一人ひとりの生活歴や役割を活かした、楽しみのある生活ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1～2回はドライブをしている。入居者と職員が一緒につくった弁当を持って、公園に出かけることもある。また、一人ひとりの希望により、買い物や墓参り等の支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、鍵をかけていないベランダから外に出ることができる。玄関は、今のところ感染症対策のために施錠している。	○	園庭のゲートボール場が地域住民との交流の場となっており、交流促進のためにも、安全性を確保しながら日中玄関に鍵をかけないで支援する方法を検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、法人の施設と防災訓練を行っている。非常時の伝達系統・夜間火災マニュアルも整備され、職員間で常に確認している。施設との協力体制も整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事摂取量や水分摂取量を記録している。摂取量が低下している入居者の食事形態及び疾患ごとの栄養については、法人施設の管理栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造和風の落ち着いた空間で、各居室からベランダに出ることができる。ホールや和室、台所テーブルが共用空間となっており、生活感や季節感のあるものを取り入れて、入居者は好きな場所で居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、居心地よく過ごせるように、本人の好きな写真や飾り物を置いたり、好みに応じて和風ベッドや畳みを設置するなど工夫している。		